

「データベースを用いた国内発症小児 Coronavirus Disease2019(COVID-19) 症例の臨床経過に関する検討」の中間報告

日本小児科学会 予防接種・感染症対策委員会

日本小児科学会では、2020年5月22日から国内小児におけるコロナウイルス感染症2019(COVID-19)レジストリ調査を継続しています。

https://www.coreregistry.jp/CoreRegistry_COVID19_CRF_Dashboard/Home/DashBoardviewer

1. 国内小児における COVID-19 の感染源

レジストリ調査結果によると、2020年2月1日～2021年6月30日に本調査に報告された国内小児 COVID-19 症例(n=2,319)の感染源は70%が家族内感染であり、学校での感染、幼稚園・保育所での感染はそれぞれ6%に留まっていた(図1)。一方で、2021年7月1日～8月17日に報告された症例(n=331)においては、家族内感染、学校での感染はそれぞれ72%、4%で大きな変化を認めなかったものの、幼稚園・保育所での感染は9%に増加($p=0.024$)していました(図2)。

図1. 2020年2月1日～2021年6月30日に報告された国内小児COVID-19症例の感染源 (n=2,319)

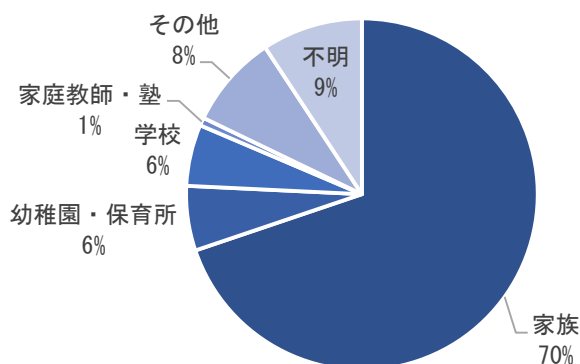
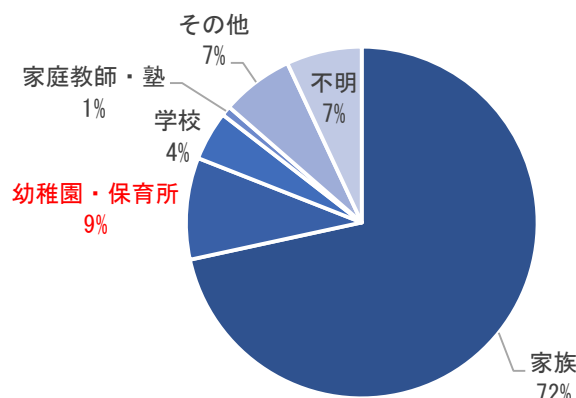
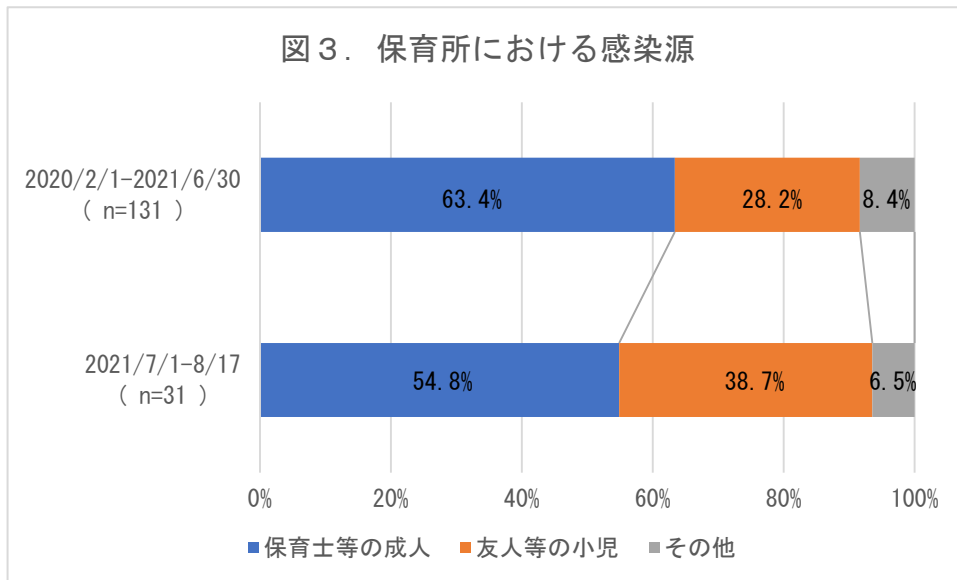


図2. 2021年7月1日～2021年8月17日に報告された国内小児COVID-19症例の感染源 (n=331)



さらに両期間の保育所における感染源の内訳を評価すると、2020年2月1日～2021年6月30日においては小児同士の感染は28.2%、2021年7月1日～8月17日においては38.7%でしたが、有意差は認めませんでした（ $p=0.36$ ）



2. 国内における SARS-CoV-2 検査陽性者のうち、20 歳未満が占める割合

（厚生労働省公表資料からの参考情報）

厚生労働省の報告によると、国内における新型コロナウイルス（以下、SARS-CoV-2）検査陽性者のうち、20歳未満が占める割合は、2020年4月(3.9%)から2021年7月(11.3%)にかけて漸増しています(図4, 5)。特に SARS-CoV-2 検査陽性者のうち10歳代が占める割合は、2020年4月の時点では2.3%に留まっていたましたが2021年7月には7.3%まで増加しています。

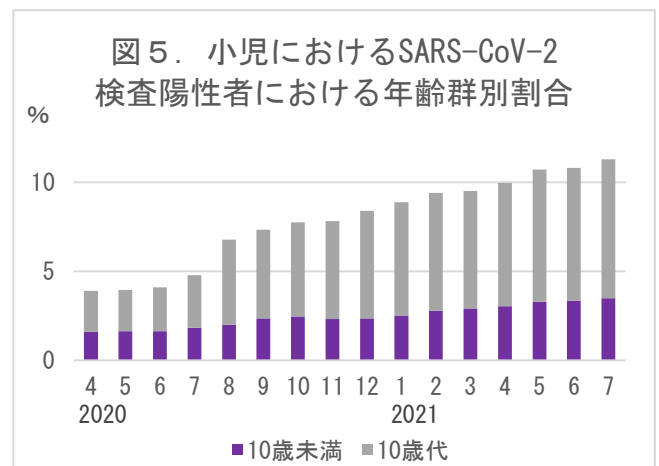


図4, 図5は SARS-CoV-2 検査陽性者の国内発生動向（厚生労働省発表）より作図

考察

2021年7月以降、幼稚園・保育所を感染源とした小児におけるCOVID-19症例の割合が増加した理由は今回の解析結果だけでは十分評価できません。有意差は認めなかったものの、小児同士の感染も漸増していることから、今後も疫学の変化は継続して評価していく必要があります。さらに、国内における全SARS-CoV-2検査陽性者のうち、20歳未満が占める割合は漸増しています。2021年春以降、変異株であるデルタ株が占める割合が徐々に増加し、感染流行第5波を認めていることから、今後、感染源の変化を含む国内小児におけるCOVID-19の疫学調査を、本レジストリ調査を用いて継続させていただきます。日本小児科学会会員の皆様におかれましては引き続き調査へのご協力をよろしくお願いいたします。

http://www.jpeds.or.jp/modules/activity/index.php?content_id=344